

# JA営農指導と県普及指導活動との連携

JA営農指導と県普及指導活動は、相互に連携しながら地域農業の振興、農村の活性化等に取り組んでいます。中でも生産者に対する技術指導は、技術情報の収集、指導能力の向上や意識の統一が重要であり、JA全農やまなしやJA山梨中央会と協力しながら、合同研修会を開催しています。

今年度はすでに「モモの病害虫防除」「ブドウのジベレリン処理適期の把握」等について開催しました。また、ブドウ新品種「甲斐のくろまる」や「甲斐ベリー3」等の県オリジナル品種は、栽培技術の確立が望まれており、重点的に取り組む計画でいます。

研修会は革新支援スタッフを中心に、試験場の研究員なども講師となり、最先端技術について情報提供を行うとともに、JA営農指導員からは各地域の状況など、きめ細かな情報交換が行われ、充実したものとなっています。

今後も果樹、野菜、作物、花き等の栽培技術、土壌管理・病害虫防除等の一般管理、経営指導や法人化指導の方法など、経営管理能力の向上を含め、合同研修会や検討会を開催し、指導者の技術統一を図っていきます。



第1回果樹研修会(H30.4月)  
(果樹生育、モモの病害虫対策の検討等)



土壌肥料研修会(H29)

## 専門学校山梨県立農業大学校 平成31年度の入学生を募集します

山梨県立農業大学校は、21世紀の農業・農村社会を担うにふさわしい実践力と経営感覚を備えた農業経営者の育成を目指しています。

### 学校説明会(本校にて) 養成科・専攻科共通

第1回	済	6月16日(土)	10時~12時	学校説明・見学会
第2回		7月28日(土)	10時~15時	学校説明・体験学習
第3回		8月18日(土)	10時~15時	学校説明・体験学習
第4回		9月8日(土)	10時~12時	進学相談会
第5回		10月27日(土)	10時30分~12時	進学相談会(収穫祭)

入学試験	科	願書受付期間	試験期日	合格発表日	
推薦	養成科	平成30年9月13日(木) ~9月26日(水)	10月10日(水)	10月24日(水)	
一般	養成科 専攻科	前期	平成30年11月8日(木) ~11月21日(水)	12月5日(水)	12月19日(水)
		後期	平成31年1月17日(木) ~1月30日(水)	2月14日(木)	2月22日(金)



農場の風景



ブドウ作業実習



トマト作業実習

問い合わせ先

専門学校山梨県立農業大学校 〒408-0021 北杜市長坂町長坂上条3251  
TEL 0551-32-2269 FAX 0551-32-2034 <http://www.pref.yamanashi.jp/noudai/>



# 山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集/発行 山梨県農政部農業技術課 住所 〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1  
Tel.055-223-1619 Fax.055-223-1622  
URL:<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>  
E-mail:[nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp)

農業革新  
支援スタッフ  
(野菜)

## トマトの病害虫診断サポートシステムの活用を

トマト栽培においては様々な病気や害虫が発生し、その防除には適切な診断が重要です。病害虫の症状は様々で、時には見たことがない症状に出会うこともあり、診断に苦慮することもあります。

そこで、総合農業技術センターでは、ほ場での病害虫診断を手助けするシステムを開発しました。このシステムは、トマトの病害20種、害虫12種について様々な写真が収録されており、スマートフォンやタブレットにインストールすることにより実際の症状と比較しながら診断することができます。

農業生産者向けシステムの入手については、地域普及センターや病害虫防除所、各JAにお問い合わせください。無料で利用できますので病害虫の診断に活用してください。



病害虫診断サポートシステムの操作画面

農業革新支援  
スタッフ  
(果樹)

## ブドウの「晩腐病」を防ごう



晩腐病が多発した果房

ブドウの「晩腐病」は、開花期前後から感染しますが、中でも幼果期以降に感染すると収穫期の発病が多くなり、果実品質や収量にも大きな影響が出るブドウの重要病害の一つです。

最近では、種なし栽培が増え、房づくり~摘粒までの管理作業が一時期に集中する傾向が見られており、感染期と摘粒作業が重なっています。更に、この時期は梅雨期であり、本病は雨水伝染するため、感染を助長している要因でもあります。



専用タイベックカサ装着状況

これまでも、物理的防除として、第1回ジベレリン処理後のデラウエア用口ウ引きカサかけを指導していますが、早い時期のカサかけは穂軸に傷がつきやすく、摘粒作業がしにくくなり、薬剤散布時にかさが上がる等の問題があり徹底されていませんでした。

そこで平成29年度の果樹試験場成果情報では、安定した防除効果があり、作業しやすい物理的防除法が紹介されました。この方法は第2回ジベレリン処理後に補助器具と、専用の穴あきタイベックカサを用いる方法で、摘粒時にカサが上下に移動でき、薬剤散布時のカサ飛びも少なく、果房に雨水が当たることも少ない事が実証されています。この補助器具は「カサジゾウ」という製品名で今年から販売されています。

この方法以外にも物理的防除として簡易雨よけも、晩腐病に対する防除効果が高いため、毎年発生が多い園では対策の一つと検討しても良いでしょう。

## 農業生産工程管理(GAP)で 安全・安心の見える化へ

普及センターでは農産物の安全・安心を確保するため、生産者や団体の農業生産工程管理(GAP)の導入を支援しています。

農産物を栽培し、収穫・出荷するまでには幾つもの作業工程があります。この作業工程の中には、収穫物の汚染や土壌・水源の汚染、農作業事故など食品安全・環境保全・農作業安全等を脅かす様々なリスクが潜んでいます。

一つ作業を間違えると農産物の信頼の低下や、農作業事故による作業の遅れなど農業経営に影響を与える問題が発生することがあります。

こうしたリスクを事前に点検して無くしていく取り組みがGAPです。

平成29年度は、当センター管内では6法人、1団体、3個人がGAPに取り組み、「やまなしGAP」の認証を取得しました。今年度もGAP認証の取得を目指す生産者や団体を引き続き支援していきます。



現地審査の様子(出荷記録等の確認)



適正管理の取り組み例

## 笛吹市で農業塾開設、 担い手の確保・育成を加速



農業塾の看板が設置されました



協定書調印式の様子

笛吹市では、4月2日にJA笛吹、笛吹市農業委員会との3者による「農業振興に関する(農業支援体制・笛吹市農業塾開設)連携協定」を締結しました。

これまで、担い手育成や地域農業の振興を目的に、「笛吹市地域農業再生協議会」、「笛吹市援農支援センター」、「JAふえふき営農支援センター」において、それぞれの担い手支援策が講じられており、地域普及センターでも援農支援センターが運営する援農講習会の講師として連携・支援してきました。

今回の連携協定により、農業塾が設置されたことで、より効率的・効果的・一体的な農業支援体制が整い、若年層からシニア層まで幅広い担い手の確保・育成が進むとともに、農業生産活動の活性化に大きな役割を果たすものと期待されています。地域普及センターとしましても、峡東果樹産地の維持・発展に向け、これまで以上に農業塾との連携を強化する中で、担い手対策を進めて行くこととしています。



## 南部町で茶産地体験ツアーの開催支援

峡南地域普及センターでは、消費者に茶への理解を深めてもらうとともに、地場産品への愛着と産地への関心を高め、「茶産地サポーター」の育成につなげていくことをねらいとして、お茶教室の開催を支援してきました。さらに、昨年からは茶産地体験ツアーの開催に向けて、関係機関や生産者と検討を重ね、今年5月に、茶生産法人の主催、茶振興協議会及び商工会の後援により、ツアーを開催することができました。

ツアーでは、茶畑で茶摘み体験をした後、その場で茶めし弁当を堪能し、さらにお茶加工場の見学やお茶の試飲、オリジナルブレンド茶づくりも行うなど、盛りだくさんの内容でした。



茶工場見学の様子

今回のツアーには、県内外から野菜ソムリエや薬膳料理研究家なども参加し、参加者からは、「お茶摘みが楽しくて、夢中になった。」「茶工場では、新茶の香りが漂い、心地よかった。」と、大変好評でした。

今後も、関係機関と一丸となって、茶産地やお茶の魅力を発信し、お茶の理解と消費拡大を図るため、観光と結びつけた取り組みを積極的に支援していきます。



茶摘み体験の様子

## 新規就農者を対象とした管内交流会の開催

富士・東部地域普及センターでは、就農して間もない生産者を対象に平成30年1月から交流会を開催しています。第2回目の5月14日は、総合農業技術センター岳麓試験地で開催し、6名が参加しました。岳麓試験地で野菜の同一マルチ年3作栽培などについて説明を受け、その後の情報交換会で、効率的な植え付け方法、野菜の保存方法、農産加工などについて自由なアイデアを出し合い、活気のある交流会となりました。

この交流会を通して、先進的な栽培技術を習得するとともに、新規就農者同士、また普及センターと気軽に話せる関係を持つことで、より楽しく農業に取り組んでいただけたらと考えています。



岳麓試験地視察の様子



情報交換会の様子